

すべての児童生徒の学力向上を目指して (平成30年度版)

～授業改善の視点を中心に～

乙訓学力向上対策会議

平成30年度に乙訓教育局管内で実践された授業改善の取組について紹介します。

第3向陽小学校 ～児童が主体的に学ぶ姿を目指して～

学習に対して意欲的だが受け身の児童を主体的に学ぶ児童に育てるために、「学び手の視点(児童の視点)をもった授業づくり」というテーマで授業改善に取り組んでいます。

授業づくりで大事にしていること

導入	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して意欲的に学ぶための仕掛けづくりをする。 いかに子どもたちが自分事の課題にできるか。 児童が「解いてみたい!」と思える場面設定をする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 対話的に考えを広げ深める。 話し合いの内容が教科としてふさわしく、より質の高いものを目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 環境を整える。(話しやすい題材設定、雰囲気づくり) 子どもがどのような情報を持っていて、その情報をどのように処理して、その結果どのような成果物が得られるかを明らかにする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な振り返り→学習してきたことの具体的な事実を確認する。 学習のつながりの関係性を明らかにする。 自己変容に気付く。



【先生の声】

教師が楽しんで教材研究をすれば、授業をするのも楽しいし、自然と子どもたちがのってくるので、そんな授業を1時間でも増やしていきたいと思いました。

第5向陽小学校 ～物語文の学習で深い学びを実現～

物語の系統指導表(教材で「物語を読む7つの技能」の何を獲得させるかをまとめた表)を作成し、指導内容を明確化して児童が深く学び、ねらう力を身につける授業改善を進めています。

物語を読む7つの技能(5向小版)

- ① 作品の構造…時・場所・登場人物・場面・あらすじなど
- ② 視点…語り手・中心人物など
- ③ 人物…登場人物・中心人物・対人物・人物像・心情など
- ④ 主題…感想・題名の意味・物語が語るメッセージなど
- ⑤ 文学の表現技法…会話文・地の文・比喻・体言止めなど
- ⑥ 文種…昔話・詩・ファンタジー・俳句・短歌・伝記など
- ⑦ 活動用語…読み聞かせ・音読・動作化・朗読など

系統指導表の具体例

「5年 世界でいちばんやかましい音(読解)では…」

7つの技能の中から	具体的な読みの技能
③	登場人物の相互関係の変化に着目して読む。
④	作品の仕組み(山場や結末)の意味から主題をとらえる。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> くり返しの効果を感じ取りながら読む。 擬態語や擬声語の効果を考えながら読む。 対比的な表現の効果を考えながら読む。



授業実践で検証

事前授業→研究授業→事後授業と同じ授業に3回取り組み、その都度、展開の見直しや発問を精選する等の授業研究を行います。そして、それぞれの授業での児童の変容を確認して主体的に深く学ぶ児童の姿について共通理解を深めます。

長岡第四中学校 ～協働的な問題解決力の向上とキャリア教育～



これまで培ってきた「活用する力」を高める実践をもとに、「協働的な問題解決力の向上」を研究の柱として授業改善を積み上げています。また研究を進める中で、実践を支える重要な視点について教師間で共通理解が深められています。

活用する力を高めるために

【基礎・基本の徹底】

少人数学級体制の下で行う基礎的・基本的な事から丁寧に指導します。



【活用する力を意識した授業改善】

定期テストの問題作成の意識を授業展開に反映、生徒への発問や単元課題設定等、「考える授業」の創造につなげます。

【全ての教科の定期テストで活用問題！】

各教科内で起案を行い、知識・理解を問うだけの出題にならないように教科内で「練り上げられた」問題づくりを検討します。

協働的な問題解決力の向上

【協働的な問題解決がされる授業展開の実践のために】

- ・生徒が主体的に課題について考える。
- ・教師や生徒間でその課題について対話する。

上記の内容等を実現するためには、小グループやペアワークなど、どのような学習形態がよいのかを各教科で授業研究を重ねて検証します。



学力をささえるもの ～キャリア教育を柱として～

【学びあいの場づくり】

生徒が安心して自らの考えを発言し、また仲間の発言を傾聴することができることは学習活動にとって重要な要因と捉え、丁寧な学級経営（集団づくり）を担当が行っています。

【学びに向かう力 ～学校の雰囲気づくり～】

・特別活動や総合的な学習の時間の活動

・地域貢献活動（地域花いっぱい運動等）

・卒業生を招いた「夢の課外授業」の実施

カリキュラムマネジメントの実現

※ キャリア教育とは… 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

大山崎中学校 ～コミュニケーションをツールに～

教員同士のコミュニケーションが授業改善の最大のツールであると捉え、授業改善を進めています。また授業の場面だけでなく、日常から生徒とのコミュニケーションも大事にして信頼関係を深めている教師の姿がみられます。



教員同士のコミュニケーションを深める

公開授業週

各学期に一度、どの教員のどの授業をいつ参観してもよいという「公開授業週」を設定しています。

- ・「他の先生の授業スタイルを学ぶ」
- ・「ベテランの先生から学ぶ」
- ・「若手のアイデアを学ぶ」
- ・「他教科から学ぶ」
- ・「自分の教科以外の授業での生徒の状況を知る」

上記の内容等について、授業後に教員同士がディスカッションして深めます。

教科の枠を超えた研究グループ

公開授業に向けて、全教職員を教科の枠を超えた4つの研究グループに編成。「主体的な学びを育むための対話」という1つの柱のもと、①指導案検討と作成、②模擬授業の実施、③指導案の再度練り上げ、④公開授業、⑤事後研究等をグループごとに協力して進めます。

教員の経験年数や教科にかかわらずそれぞれの立場（フラットな立場）で意見を出し合い研究することができます。

【協議した具体的な内容】

- ・教材や単元
- ・題材の捉え方
- ・より効果的で必然性のある話し合い活動のもち方
- ・グループの構成の方法
- ・生徒が主体的で能動的に思考する教師の投げかけ
- ・発問のタイミング

生徒とのコミュニケーションを深める

みんなで共通理解

コミュニケーションを深めるには、生徒がいる学級や集団で、以下の例のような一人一人の安心・安全が保証されるのが大前提です。

- ① 1年生は、年度当初に中学校における約束事や生活面でのルールを一斉指導！
- ② 担任や教科ごとに漏れることなく、同じタイミングで確認！

【ルールの具体例】

- ・目上の人、初対面の人には『敬語』を使うのが社会の常識。
- ・『暴言』・『悪口』・『不快』な発言の無い学年に！
※どんな言葉がこれに当たるかな？
- ・授業中の『私語』『立ち歩き』『落書き』は禁止！
※発言と私語の違いをハッキリさせよう。

生徒にも教員にも立ち返る共通認識があることが、信頼感や安心感につながっています。

授業と授業の間に

授業と授業の合間に教員がすぐに職員室に戻るのではなく、学年のフロアに残ります。生徒と語り合ったり、授業での質問などを受けたりして、普段の生徒の状況を常に把握することを大切にしていることも生徒と教員の信頼感につながっています。



「授業改善に関するアンケート」から

学力向上対策会議で「授業改善に関するアンケート」を行いました。その結果と参考になる意見等をまとめました。

各小中学校における授業研究のようす

① 今年度の研究授業の回数 (模擬授業、先行授業含む。研究発表会・公開授業は含まない。)	平均…7.7回
② 学校・学年ブロック・教科部等で指導案検討(事前研)をしていますか。	した…92.3%
③ 学校・学年ブロック・教科部等で事後研をしていますか。	した…96.2%
④ 事後研での授業評価について、評価シート等(改善の視点を明確にするツールも含む)を活用していますか。	した…64.0%
⑤ 事後研での授業評価について、児童生徒の成果物(ノート等)で達成度を確認していますか。	した…64.0%

【わかったこと①】

管内のほとんどの小中学校で校内の授業研究についての事前研、事後研は行われています。一方、授業参観時の授業評価シート等の活用や児童生徒の成果物を授業評価に生かすという視点は、これからの充実が期待されます。

「教職員のベクトル合わせ」を高めるための工夫

- 教師の話し合い活動の工夫
- 授業スタイルの共通理解
- 授業参観の視点の提示
- 通信の発行等

授業改善を進める上で、成果のあった手法

- 同じ授業(本時)を複数回、実施する。
- 児童生徒の変容をみる。
- ICT 機器の活用
- お互いの授業を参観できるように調整

【わかったこと②】

各学校で最も大事にされていることが教師間のコミュニケーションでした。教員同士の学び合いが充実するよう、教科や学年の枠を超えたグループ編成をしている学校が多くあります。

年度当初は教師が入れ替わることを考え、研究主題の共通理解が速やかにできるように「自校の授業スタイル」の確認をしたり、師範授業をみたりしている学校がありました。また、研究通信の発行や研究テーマをいつでもみられるところに提示する等の「見える化」をしている学校もあります。

【わかったこと③】

児童生徒の変容をみる視点では、道徳ノートに生徒の授業での振り返りや学びを記入させその内容から個々の変容をみて参考材料とする、授業場面で個々の児童に着目しその学びを見取る、などの意見があります。

中学校では時間割りを工夫して、お互いの授業を参観、ディスカッションを活発にして教師の学びを深められたとの意見があります。

「平成 30 年度授業改善セミナー」

8月2日(木)に長岡京市立中央公民館 市民ホールで開催したこのセミナーは、優れた教育実践を学ぶことを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの推進を目的として、今年度初めて企画しました。

秋田県能代市立常盤小学校 矢田部瑞穂 教頭先生(元秋田県教育専門監)をお招きし、模擬授業と講演を行いました。講演では、「話し合い活動を充実させるために」というテーマを中心に、具体的な指導方法について学びました。



お知らせ ♪

平成 31 年度乙訓学力向上対策会議「授業改善セミナー」

- 日時 平成 31 年 7 月 31 日(水) 午後 1 時 30 分から同 3 時 50 分まで
- 会場 長岡京市立中央公民館 市民ホール(予定)

今年も授業改善セミナーを開催！ 参加お待ちしております。

